

当報告の内容は著者の著作物です。

## フィールド言語学カフェ

**開催日時**：平成 24 年 9 月 21 日（土曜日）14:30～17:30

**開催場所**：AA 研 3 階マルチメディア会議室（304 号室）

**概要**：

本イベントは、アジア・アフリカのさまざまな地域でフィールドワークをおこなっている言語研究者が自分の現地調査における体験を交えながら研究内容について語ることにより、(1)フィールド言語学を志す学生に実際のフィールドワークとはどんなものか知ってもらうこと、(2)異なる地域でフィールドワークをおこなう研究者同士が議論をとおして問題を共有することを目的として開催された。プログラムおよび各発表の概要は以下のとおりである。

1. 中山俊秀 (AA 研所員) 「趣旨説明」

2. 大島一 (AA 研研究機関研究員) 「オーストリア・ブルゲンラントのハンガリー語話者の方言調査」

オーストリアに住むハンガリー語話者を対象とする社会言語学的な調査について、地域的特性、現地のハンガリー語話者の言語意識、現地研究機関との協力の必要性を中心に発表した。

3. 永山ゆかり (北海道大学) 「カムチャッカの危機言語アリュートル語を調査する」

カムチャッカで話されるアリュートル語の現地調査の実情を報告するとともに、危機言語を研究すること、マイノリティーとして暮らす人々の現実をより身近なものとして捉えることの意味について問題提起した。

4. 白石英才 (札幌学院大学) 「Медведёв は「メドベージェフ」か -ニヴフ語と口蓋化-

ロシア、アムール流域で話されるニヴフ語に観察される母音/e/の口蓋化現象と、世代差、地域差、文字教育の有無といった観点から予測される同現象に対する説明について報告をおこなった。

5. 三宅良美 (秋田大学) 「ジャワ語の方角と身体表現」

ジャワ語の 3 つのスピーチレベル (Ngoko, Madya, Krama) の使用実態にかんする現地調査の結果と、スピーチレベルという観点から見たこの言語の方角および身体表現について報告をおこなった。

報告書作成：長崎郁 (AA 研特任研究員)